

# 2014年2月期 第3四半期 決算補足資料

株式会社アダストリアホールディングス  
<http://www.adastria.co.jp/>

## 【ポイント】

- グローバルワーク・レプシムローリーズファームが好調に推移。  
新規ブランドでは、レピピアルマリオが好調。
- ローリーズファームのメンズラインは順調な立ち上がり。
- WEB売上は下期も+2割以上の増収で、引き続き売上を牽引。  
「collect point MEMBERS」の会員数は12月末で180万人に近づく勢い。

## 【トリニティアーツ】

- ニコアンドとスタディオクリップはCM効果で客数が増加し、売上を牽引。

## 【SPA体制の進化】

- 2Qよりポイントの生産管理部をナチュラルナインに移管し、各ブランドとの商品開発体制を構築。
- 自社生産比率は、下期に30%台半ばまで上昇。

## 【海外事業】

- 3Qは香港でグローバルワーク・ニコアンドなど6店、成都にローリーズファームを出店。

# 連結損益計算書

ADASTRIA

(百万円)

	2013/2期 第3四半期				2014/2期 第3四半期					
	累計		3Q3ヶ月		累計			3Q3ヶ月		
		構成比		構成比		構成比	前期比		構成比	前期比
売上高	85,092	100.0%	29,939	100.0%	105,151	100.0%	123.6%	41,402	100.0%	138.3%
営業利益	7,259	8.5%	3,498	11.7%	5,369	5.1%	74.0%	1,602	3.9%	45.8%
経常利益	7,412	8.7%	3,568	11.9%	5,494	5.2%	74.1%	1,514	3.7%	42.4%
当期利益	4,222	5.0%	2,053	6.9%	2,296	2.2%	54.4%	205	0.5%	10.0%

EBITDA	10,496	12.3%	4,638	15.5%	10,603	10.1%	101.0%	4,112	9.9%	88.7%
減価償却費	3,237	3.8%	1,140	3.8%	3,965	3.8%	122.5%	1,646	4.0%	144.4%
のれん償却費	-	-	-	-	1,267	1.2%	-	862	2.1%	-

\*バビロン(2013/2期4Q～)、ナチュラルナイン(2014/2期2Q～)、トリニティアーツ(2014/2期3Q～)を新規連結。

3Qは記録的な残暑で小売各社が販売苦戦。のれん償却費の計上もあって3Q累計で営業減益となるも、EBITDAは増益を確保。

- 売上：1051億円(前期比123.6%)と新規連結効果で大幅増収。ポイント(前期比104.2%)・海外(同173.3%)に加え、下期よりトリニティアーツを新規連結。
- 営業利益：53億円(前期比74.0%)とのれん償却費の計上等により減益。ポイント82億円(前期比115.8%)・トリニティアーツは増益寄与。一方で、海外の出店費用など先行投資による赤字拡大、円安による製造原価の上昇、のれん償却費・持株会社運営費等の計上が増益要因に。
- EBITDA：106億円(同101.0%)と増益を確保。
- 当期利益：のれん償却費の計上、子会社の赤字額合計の増加により、22億円(同54.4%)に留まる。

# 連結貸借対照表

ADASTRIA

(百万円)

	2013年2月末		2013年11月末		
	連結	構成比	連結	構成比	増減額
流動資産	33,190	52.3%	45,075	44.9%	+11,884
棚卸資産	7,749	12.2%	17,939	17.9%	+10,189
固定資産	30,220	47.7%	55,220	55.1%	+24,999
総資産	63,410	100.0%	100,295	100.0%	+36,884
負債	24,812	39.1%	48,142	48.0%	+23,329
有利子負債	1,097	1.7%	11,781	11.7%	+10,684
純資産	38,598	60.9%	52,153	52.0%	+13,554

経営統合により、総資産は約1.5倍となるも、財務体質の健全性は維持。

- 棚卸資産: 179億円
  - ポイント106億円(前年同期比113.1%)
  - トリニティアーツ44億円(同123.8%)
  - 海外12億円
- のれん代: 176億円(前期末比+158億円)
- 有利子負債: 117億円(前期末比+106億円)となるも、現預金126億円の範囲内。
- 純資産: 経営統合による資本剰余金の増加、自己株式の減少により、521億円に増加。自己資本比率は52.0%に低下するも、依然として健全な水準。

(百万円)

	2013/2期 第3四半期		2014/2期 第3四半期			
	累計	3Q3ヶ月	累計		3Q3ヶ月	
				前期比		前期比
売上	81,993	28,808	85,460	104.2%	28,906	100.3%
既存店前年比	97.1%	95.9%	100.8%	+3.7P	97.6%	+1.7P
売上総利益	49,118	17,990	51,023	103.9%	17,650	98.1%
売上総利益率	59.9%	62.4%	59.7%	▲ 0.2P	61.1%	▲ 1.4P
販管費	42,002	14,472	42,786	101.9%	14,216	98.2%
販管費率	51.2%	50.2%	50.1%	▲ 1.2P	49.2%	▲ 1.1P
営業利益*	7,115	3,517	8,237	115.8%	3,434	97.6%
営業利益率	8.7%	12.2%	9.6%	+1.0P	11.9%	▲ 0.3P

\* HDに支払うグループ運営費等計上前

出店	75	32	62	12
退店	29	7	25	3
改装/変更	53	32	72	37
期末店舗数	813	813	822	822

- 売上：残暑で秋物の販売時期を逃したことにより、既存店売上前年比97.6%と苦戦。  
ブランド別では、グローバルワーク(前年同期比113.4%)・レプシムローリーズファーム(同119.7%)が好調に推移。新規ブランドではレピピアルマリオ(同143.0%)が高成長。
- 売上総利益率：61.1%と前年同期比▲1.4P低下。円安による値入率の悪化に加え、値下げロスが発生。
- 販管費：前期の大型路面店の退店等による設備費の減少を主因として微減となり、販管費率は49.2%と前年同期比▲1.1P低下。
- 自社生産比率：30%台半ばまで上昇。売上を牽引するヒット商品もあり。
- WEB売上：+2割以上の増収。  
「collect point MEMBERS」の会員数は12月末で180万人に近づく勢い。
- 出退店：ローリーズファーム・グローバルワーク・レプシムローリーズファームなどで積極的な改装を実施。



(百万円)

	2013/2期 第3四半期		2014/2期 第3四半期			
	累計	3Q3ヶ月	累計		3Q3ヶ月	
				前期比		前期比
売上	18,160	6,916	26,853	147.9%	9,159	132.4%
既存店前年比	116.4%	113.3%	112.2%	▲ 4.2P	104.5%	▲ 8.8P
売上総利益	10,525	4,188	15,116	143.6%	5,468	130.6%
売上総利益率	58.0%	60.6%	56.3%	▲ 1.7P	59.7%	▲ 0.9P
販管費	9,459	3,938	13,978	147.8%	5,273	133.9%
販管費率	52.1%	56.9%	52.1%	▲ 0.0P	57.6%	+0.6P
営業利益*	1,066	249	1,138	106.8%	194	78.1%
営業利益率	5.9%	3.6%	4.2%	▲ 1.6P	2.1%	▲ 1.5P

\* HDに支払うグループ運営費等計上前

出店	64	28	93	33
退店	6	0	4	0
改装	15	6	11	1
期末店舗数	205	205	273	273

- 売上:ニコアンド・スタディオクリップとともにTVCMによって認知度が向上し、客数が増加して、既存店売上前年比104.5%と好調に推移。
- 売上総利益率:59.7%と前年同期比▲0.9P低下。シーズン立ち上がりやや苦戦したことにより値下げロスが増加。
- 販管費:ハイペースでの出店が続いていることによる設備費の増加を主因として、販管費率は57.6%と前年同期比+0.6P上昇。
- 営業利益:TVCM費用や出店費用の大半が3Qに集中しており、概ね計画通り。
- 出店:3Qで33店と下期計画分を終了しており、新店の立ち上がりも概ね順調。4Qにも来シーズンに向けて数店舗の出店が予定されている。

- 台湾  
集客力が低下した百貨店内小型店からの退店が概ね完了。一方で、出店は好立地のショッピングセンターにシフト。
- 香港  
大型店の出店費用により損益は前年比で悪化しているものの、売上は回復基調。  
12月にニコアンド4店目となるGrand Century Place店がオープン。
- 中国  
沿岸部大都市から、成都など地方中核都市にも進出。
- シンガポール  
季節性・消費者嗜好への対応など、解決すべき課題もあるが、東南アジアのショールームとしてのポテンシャルに期待。  
12月にグローバルワーク1号店となるWestgate店がオープン。
- 韓国  
2014年5月にニコアンドを初出店する予定。

## 業績予想の適切な利用に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## その他留意事項

資料内の数値は百万円未満を切り捨て表示し、百分率は元データから算出しております。

**ADASTRIA**